



A5 ユーザーマニュアル

2026 年 06 月 22 日

目次

1 システム設定	4
1.1 始める	4
1.2 プロンプト出力	6
2 デバイスの機能設定	11
2.1 照明と照準	11
3 トリガー設定	14
3.1 読書モード	14
4 インターフェース設定	23
4.1 通信方式	23
4.2 命令	28
4.3 パケットフォーマット	30
5 キーボード設定	31
5.1 キーボードのレイアウト	31
5.2 キーボードの種類	33
5.3 キーボードの大文字と小文字の変換	33
5.4 キーボード文字送信時間間隔	33
5.5 キーボード文字送信間隔のクイック設定	34
5.6 キーボード制御文字出力モード	35
6 データ編集	35
6.1 バーコード ID	35
6.2 ターミネーター	36
6.3 接頭語	37
6.4 サフィックス	38
6.5 バーコードタイプに基づいてプレフィックスを追加	40
6.6 バーコードタイプに基づいてサフィックスを追加	42
6.7 固定文字を非表示にする	45
6.8 長さに基づいてバーコードデータを保持する	46
6.9 長さに基づいてバーコードデータを非表示にする	48
6.10 バーコードタイプに基づいて任意の長さのバーコードデータを非表示にする	51
6.11 バーコードの種類に基づいて、バーコードの下部にある任意の長さのデータを非表示にします	54
6.12 バーコードの種類に応じて、バーコードの末尾にある任意の長さのデータを非表示にします。	55
6.13 カスタムデータを挿入する	57
6.14 データの置き換え	59
6.15 改行と復帰	61
6.16 URL スイッチ	61
6.17 請求書発行機能	62
6.18 GS1 ルールが有効になりました	63
7 キャラクター設定	63
7.1 文字セット	63
8 バーコード設定	64
8.1 バーコードのグローバル操作	64

8.2	Code 128	70
8.3	UCC/EAN-128/GS1-128	72
8.4	EAN-8	74
8.5	EAN-13	76
8.6	ISSN	77
8.7	ISBN	78
8.8	UPC-E	78
8.9	UPC-A	81
8.10	ITF25	83
8.11	NEC25/COOP25	86
8.12	MATRIX25	89
8.13	IND25	92
8.14	STD25	94
8.15	Code 39	96
8.16	Codabar	101
8.17	Code 93	105
8.18	Code 11	107
8.19	MSI Plessey	110
8.20	GS1 DataBar/RSS	113
8.21	Composite Code	113
8.22	TELEPEN	113
8.23	TRIOPTIC	114
8.24	HONG KONG 2 OF 5/CHINA POST	114
8.25	韓国郵便/韓国郵便	114
8.26	PDF417	115
8.27	QR Code	116
8.28	Data Matrix (DM)	117
8.29	Aztec Code	119
9	付録	119
9.1	デジタル設定コード	119
9.2	Code ID	121
9.3	AIM ID	121
9.4	ASCII コード比較表	122
9.5	バーコードの種類	125

1 システム設定

1.1 始める

マニュアルの説明

このマニュアルには、コードシステムの設定、機能の設定（照明、キーボードの種類、工場出荷時設定へのリセットなど）、およびインターフェースの設定が含まれています。必要な機能を変更する必要がある場合は、以下の設定コードに従って構成をスキャンするだけです。（*）が付いているものはすべて工場出荷時のデフォルト値を示します。

バージョン情報

ホストが現在のデバイスのバージョン情報をすぐに読み取るために、「バージョン情報」を読み取ることで確認できます。



バージョン情報

コードスイッチを設定する

設定コード機能を ON にすると、設定コードを読み取ることでコード読み取りモジュールのパラメータを設定することができます。

注釈

設定コードを通じて設定を変更すると、現在のフラグビットリスト全体がメモリに保存されます。つまり、シリアルポートを通じて設定されたが保存されていない設定も一緒に保存されます。



無効にする



* 有効にする

コード内容の出力を設定します

設定コード内容を出力するかどうかは、以下の設定コードをスキャンすることでコード読み取りモジュールのパラメータを設定できます。

 * 無効にする	 有効にする
--	---

ユーザーのデフォルト設定

 現在の設定をユーザーのデフォルトとして保存 する	 ユーザーの工場出荷時のデフォルト設定を復元 する
---	--

ユーザーは、頻繁に使用する構成をユーザーのデフォルト設定として保存できます。「現在の設定をユーザーデフォルト設定として保存」をスキャンすると、デバイスの現在の設定情報をユーザーデフォルト設定情報として保存できます。この操作の後、新しい構成情報が元のユーザーのデフォルト設定情報を置き換えます。「ユーザーデフォルト設定に戻す」をスキャンすると、コード読み取りモジュールをユーザーデフォルト設定に切り替えることができます。

電力制御

スリープモード

このパラメータはモジュールの電力モードを決定します。スリープモードでは、コード読み取りモジュールは可能な限りスリープ状態になります（ウェイクアップコマンドで復帰可能）



* スリープモード

連続作業モード

連続動作モードでは、コード読み取りモジュールは、デコードを試行するたびに起動したままになります。



連続作業モード

1.2 プロンプト出力

プロンプトサウンド関連

ブザーの種類

ブザーをパッシブまたはアクティブブザーとして設定するには、次の設定コードを読み取ります。



* 受け身



アクティブ

ボリュームサイズ

ユーザーは、次の設定コードを読み取ることで、アプリケーション環境や個人の習慣に応じてブザーの音量を調整できます。



ミュート



ベース



アルト



* 高音

電源投入時のビープ音



無効にする



* 有効にする

セットアップコードプロンプトトーン

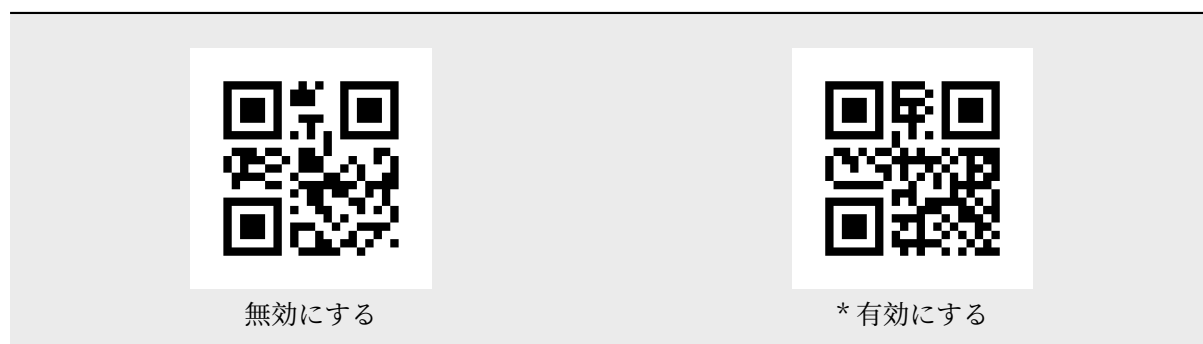


無効にする



* 有効にする

デコードトーン



プロンプトトーン周波数のデコード

ユーザーが使用するブザーの共振周波数はデフォルトの周波数と異なる場合があります。以下の設定コードを読み込むことで、デコードプロンプトトーンの周波数を調整できます。デフォルトは 2700Hz です。

「ブザー周波数」設定コードをスキャンします。



ブザー周波数

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、周波数が 1500Hz の場合、1、5、0、0 をスワイプします。周波数が 2700Hz の場合、スワイプ 2、7、0、0

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

デコードプロンプトサウンドのクイック設定



1000Hz



1500Hz



2000Hz



2500Hz



*2700Hz



3000Hz



3500Hz

デコードトーン持続時間

ユーザーは必要に応じてデコードプロンプト音の長さを設定できます。デフォルトは 50 ミリ秒です。

「ビープ音の長さ」設定コードをスキャンします



プロンプトトーンの長さ

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、継続時間が 50ms の場合、5,0 をスキャンします。期間が 200ms の場合、2,0,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

デコードトーンの継続時間を素早く設定



2 デバイスの機能設定

2.1 照明と照準

照明

この照明は撮影や読み取りの補助照明として使用でき、ビームが読み取り対象を照らすため、読み取り性能と弱い周囲光への適応能力が向上します。ユーザーは、アプリケーション環境に応じて次のいずれかの状態に設定できます。

通常照明（初期設定）：撮影時と読み取り時に照明が点灯し、それ以外のときは消灯します。

照明は常にオンです。コード読み取りモジュールがオンになった後も照明は点灯し続けます。

点灯しない：いかなる状況でもライトが点灯しません。



標的

投影された照準ビームは、ユーザーが読書のために撮影するときに最適な読書距離を見つけるのに役立ちます。アプリケーション環境に応じて、ユーザーは次のことができます。

以下のモードのいずれかを選択します。

通常照準 (デフォルト設定): コード読み取りモジュールは、射撃時と読み取り時に照準ビームのみを投影します。

照準は常にオン: コード読み取りモジュールの電源がオンになった後も、照準ビームを投影し続けます。

照準なし: 照準ビームはいかなる状況でも消えます。



リマインダーライト関連

警報灯機能の種類



* デコードのヒント



電源プロンプト

デコード成功インジケータライト



無効にする

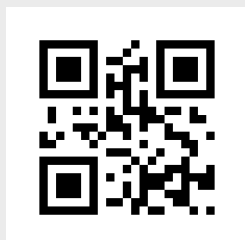


* 有効にする

解読成功プロンプト調光方式

モード 0: 電源投入後長時間オフ、デコードが成功するとオン、指定された時間オンになった後オフ。

方法 1: 電源投入後は常にオン、デコードが成功するとオフ、指定した時間が経過するとオンになります。



* モード 0



方法 1

デコードステータス NR 出力

NR は No Read の略です。トリガーボタンを放す前に、タイムアウト期間内にバーコードをデコードできない場合は、「NR」メッセージの出力が許可されます。この機能を無効にすると、バーコードをデコードできなかった場合でもホストにメッセージを出力できません。



* 無効にする



有効にする

3 トリガー設定

3.1 読書モード

一般的な読み取りモード

キーホールド

キーホールドモードに設定し、キーを押すと読み取りが開始され、キーを放すと読み取りが終了します。読み取りに成功するか、読み取り時間が1回の読み取り時間を超えると、読み取りは終了します。



キーホールド

シングルボタントリガー

シングルボタントリガーモードに設定します。ボタンを押して読み取りを開始します。ボタンを放しても読み取りは停止しません。読み取りが成功した場合、または読み取りが1回の読み取り時間を超えた場合、読み取りは停止します。



シングルボタントリガー

連続モード

設定完了後はトリガーする必要はありません。コード読み取りモジュールはすぐにコードの読み取りを開始します。読み取りが成功して情報が出力されるか、1回の読み取り時間が経過すると、読み取り間隔がタイムアウトした後、次の読み取り間隔が自動的に開始されます。



連続モード

オートセンシングモード

自動検知モードでは、コード読み取りモジュールが周囲の環境の明るさを検出します。明るさが変化すると、読み取りがトリガーされます。読み取りが成功するか、読み取り時間が1回の読み取り時間を超えて終了します。前回の読み取りが成功したか失敗したかに関係なく、周囲の環境の明るさを検出するために再入力します。



オートセンシングモード

感度

感度とは、センサー読み取りモードでシーンの変化を検出する度合いを指します。コード読み取りモジュールは、シーンの変化の程度が要件を満たしていると判断すると、監視状態から読み取り状態に切り替わります。



* 高感度



中感度

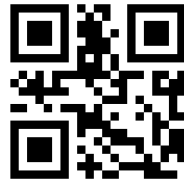


低感度

手ぶれ補正持続時間の設定

画像安定時間とは、シーンの変化を検出するコード読み取りモジュールが、センサー読み取りモードでコードを読み取る前に画像が安定するまで待機する必要がある時間を指します。手ぶれ補正時間の設定範囲は 0～65535ms、デフォルト値は 300ms です。

「安定化持続時間」設定コードをスキャンします。



手ぶれ補正時間

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、継続時間が 100ms の場合、1、0、0 をスキャンします。期間が 1005ms の場合、1、0、0、5 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

手ぶれ補正時間を素早く設定



100ms



200ms



*300 ミリ秒



400ms



500ms



1000ms

コマンドトリガモード

コマンドを介してコード読み取りモジュールの読み取りをトリガーすることで、コマンドを介して読み取りをアクティブに終了できます。読み取りに成功するか、読み取り時間が1回の読み取り時間を超えると、読み取りは終了します。特定のトリガーコマンドについては、製品の説明書情報を参照してください。

i 注釈

トリガーおよび終了コマンドはどのモードでも有効です

特別な読み取りモード

画面高速モード

このモードは特殊なモードであり、一般版製品には適用されません。画面コードを迅速に認識する必要があるアプリケーションシナリオに適しています。必要な方は販売元にお問い合わせください。

高速コード読み取りモード

このモードは特殊なモードであり、汎用製品には適していません。さまざまな紙媒体のバーコードを迅速に読み取る必要があるアプリケーションシナリオに適しています。固定モジュール、コード読み取りプラットフォーム、その他の製品形式に適しています。必要なユーザーは供給元にお問い合わせください。

1回の読書時間

1回のコード読み取りの継続時間とは、読み取りをトリガーして正常に読み取ることができなかった後に許可される最長の読み取り試行時間を指します。この時間を超えると、読み取り状態が終了します。単一コード読み取り時間の範囲は0～65535ミリ秒、デフォルトは5000ミリ秒です。

一回の読み取り時間の設定

「1回読み取り時間」設定コードをスキャンします



1回の読書時間

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、継続時間が100msの場合、1、0、0をスキャンします。期間が1005msの場合、1、0、0、5をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

1 回の読み取り時間を素早く設定

	
0ms (無限時間)	1000ms
	
2000ms	3000ms
	
*5000 ミリ秒	10000ms

同一コード読み取り間隔

連続モードおよび自動検知モードで同じバーコードが複数回読み取られるのを防ぐために、コード読み取りモジュールは同じバーコードの読み取りを一定時間遅らせるように要求できます。同一コード遅延とは、バーコードを読み取った後、一定時間内に同じバーコードの読み取りを拒否することを意味します。時間が経過した後にはのみ、読み取りと出力が可能になります。範囲は 0 ～ 65535 ミリ秒、デフォルトは 0 ミリ秒です。

同一コード読み取り間隔設定

「同一コード時間間隔」設定コードをスキャン



同一コード時間間隔

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、間隔が 100ms の場合、1、0、0 をスキャンします。間隔が 1005ms の場合、1、0、0、5 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

同一コード読み取り間隔のクイック設定

 * 0 ミリ秒	 100ms
 300ms	 500ms
 1000ms	 3000ms
 5000ms	 10000ms
 無限の遅延 (同じコードを読み取らない)	

読み取り間隔時間

連続モードでの 2 つの読み取り間の間隔。最後の読み取りが成功したか失敗したかに関係なく、この時間が経過すると自動的に次の読み取りに入ります。この設定は主に連続モードに適用されます

デフォルト: 500ms、範囲: 0 ～65535ms

読み取り間隔の設定

「読み取り間隔時間」設定コードを読み取ります。



読み取り間隔時間

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、間隔が 100ms の場合、1、0、0 をスキャンします。間隔が 1005ms の場合、1、0、0、5 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

読み取り間隔時間を素早く設定

 0ms	 *500 ミリ秒
 1000ms	 2000ms
 5000ms	 10000ms

4 インターフェース設定

4.1 通信方式

USB HID-KBW

コード読み取りモジュールが USB ラインを使用してホストに接続されている場合、USB KBW 設定コードをスキャンすることで、コード読み取りモジュールを標準キーボード入力用に構成できます。



USB HID-KBW

USB COM

コード読み取りモジュールが USB ラインを使用してホストに接続されている場合、USB COM 設定コードをスキャンすることで、コード読み取りモジュールを仮想シリアルポート出力モードに設定できます。



USB COM

シリアルポート

シリアル通信インターフェースは、コード読み取りモジュールをホストデバイス (PC、POS など) に接続する一般的な方法です。コード読み取りモジュールがシリアルポートケーブルを使用してホストに接続されている場合、システムはデフォルトでシリアル通信モードに設定されます。シリアル通信インターフェースを使用する場合、スムーズな通信と正しいコンテンツを確保するには、コード読み取りモジュールとホストデバイス間の通信パラメータ設定が完全 に一致している必要があります。



TTL-232 シリアルポート

コード読み取りモジュールのシリアル通信インターフェースは TTL レベル信号 (TTL-232) を使用します。このインターフェースは、ほとんどのシステムアーキテクチャに適応できます。システムが RS232 形式のアーキテクチャを使用する必要がある場合は、外部変換回路を追加する必要があります。

コード読み取りモジュールのデフォルトのシリアル通信パラメータを表 2-1 に示します。

シリアル通信パラメータ表 2-1

パラメータ	デフォルト
ボーレート	115200
チェックデジット	なし
データビット	8
ストップビット	1

ボーレート

コード読み取りモジュールが TTL-232/RS232 を通じてホストと通信する場合、伝送速度、検証、フロー制御などを含む通常の通信と同じ通信パラメータを設定する必要があります。伝送速度はボーレートで、デフォルトのボーレートは 115200 です。



600



1200



2400



4800



9600



14400



19200



38400



57600



*115200

チェックデジット



*チェックサムなし



奇数



平

ストップビット



*1ビット



2名

データビット



USB HID-POS

デバイスが HID デバイスの場合、次の設定コードを読み取って、HID POS デバイスモードを選択できます。



HID POS

4.2 命令

形式

命令の構成: 命令は ASCII 文字列を使用し、次のように構成されます。

- セットアップコード
- 命令の種類
- デフォルトのチェックサムは「99」です

命令の種類

命令の種類	命令
永続的な設定手順	設定コード + ">;99' "
一時的なセットアップ手順	セットアップコード + " ^;99"
クエリコマンド	セットアップコード + " ?;99"
return コマンドは正しいです	セットアップコード + " \$;99"
リターンコマンドエラー	設定コード + " *;99"

関数	送信	正しく返す	エラーリターン	述べる
セットアップ手順	>!0010201.>;99	>!0010201.\$;99	>!0010201.*;99	
クエリコマンド	>!0010201.?;99	>!001020X.\$;99	>!0010201.*;99	X クエリ値

例: 終了文字をキャリッジリターンとラインフィードに設定する場合、設定コードは >!0010201 です。

特別な命令には永続的な設定命令が含まれるため、頻繁に使用しないでください。工場出荷時や定期的に設定する場合は、常設設定コマンドの使用を推奨します。コードを読み込むたびに設定を変更する場合は、一時設定コマンドを使用してください。永続設定コマンドを頻繁に使用すると、コード読み取り装置の寿命に影響します。

詳細な手順については、付録 D を参照してください。

答え

有効になった後、ホストはコマンドを送信し、コード読み取りモジュールはそれに応じて応答します。



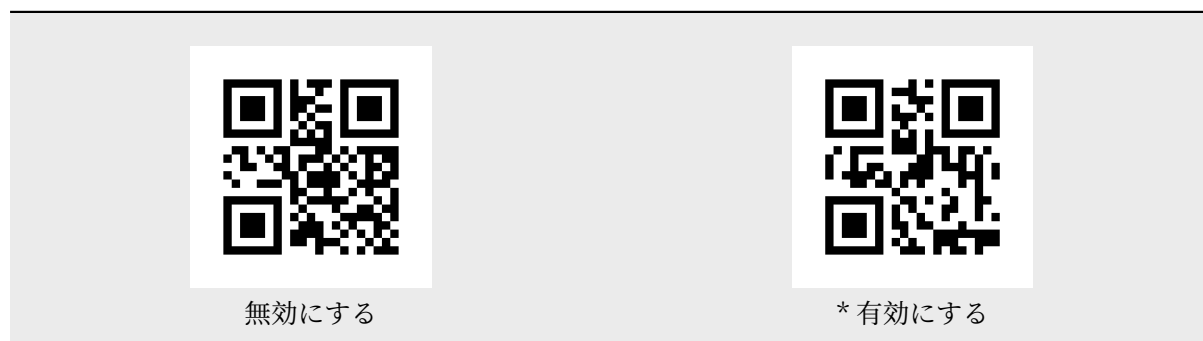
無効にする



* 有効にする

コマンドプロンプト音

有効にすると、コード読み取りモジュールが命令を受け取ると、音声プロンプトが表示されます。



4.3 パケットフォーマット

データをデコードする

識別子	州	タイプ	長さ	バーコードの種類	データ	チェック
0x99 0xDD			0x06			

フィールドの説明

フィールド名	サイズ	説明する
識別子	2 バイト	固定 0x99、0xDD
州	1 バイト	bit0: 永続的な変更 bit1: 繰り返し送信 bit2: コマンドプロンプト音
タイプ	1 バイト	指導の種類
長さ	4 バイト	上位バイトが最初 (下位アドレス)、下位バイトが最後 (上位アドレス)、チェックディジットは含まれません
バーコードの種類	1 バイト	詳細については付録 F を参照してください
データ	変数	データをデコードする
チェック	1 バイト	XOR チェック

ACK が有効な場合、ホストはデコードデータコマンドを受信し、コード読み取りモジュールに ACK を返信する必要があります。

スイッチ

有効にすると、デコードされたデータがパケット形式で送信されます。



* 無効にする



有効にする

5 キーボード設定

5.1 キーボードのレイアウト

さまざまな国のホストが使用できるように、対応する国の「キーボード」を読み込んで設定を行うことができます。



* アメリカ



ベルギー



ブラジル、ポルトガル語 (ブラジル ABNT)



デンマーク



フィンランド



フランス



オーストリア、ドイツ



ギリシャ



ハンガリー



イタリア



ラテンアメリカ、南アメリカ諸国



オランダ

5.2 キーボードの種類

仮想キーボードを有効にすると、どのキーボード言語モードでも正しい英文字、英語記号、数値データを出力できます。仮想キーボードを使用する場合は、小さいキーボードの数字キーが有効になっていることを確認する必要があります。



* QWERTY キーボード



仮想キーボード

5.3 キーボードの大文字と小文字の変換

文字変換では、英字を含むバーコードを出力する際、設定により出力結果をすべて大文字またはすべて小文字にできます。たとえば、バーコード内容が ab123dE の場合、「大文字に変換」のバーコードを読み取ると出力結果は AB123DE になり、「小文字に変換」のバーコードを読み取ると出力結果は abc123de になります。既定では大文字小文字の変換は行いません。



* 通常の出力



すべて大文字



すべて小文字



逆の場合

5.4 キーボード文字送信時間間隔

キーボード文字間の送信時間間隔を設定することで、互換性を向上させ、データ損失の可能性を減らすことができます。時間間隔の設定範囲: 0 ～65535ms、デフォルト値: 5ms。

「文字送信間隔」設定コードを読み取ります。



文字送信時間間隔

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、継続時間が 10ms の場合は 1,0 をスキャンします。期間が 100ms の場合、1、0、0 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

5.5 キーボード文字送信間隔のクイック設定

 0ms	 *5 ミリ秒
 10ms	 20ms
 30ms	 50ms

5.6 キーボード制御文字出力モード

ASCII コードでの制御文字 (0x00-0x1F) 出力モードの選択

出力ファンクションキー: 制御文字はカスタムファンクションキーとして使用されます。特定の関数については、「[ASCII コード比較表](#)」を参照してください。

CTRL キーの組み合わせを出力: CTRL キーの組み合わせモードでは、制御文字が出力されません。特定の関数については、「[ASCII コード比較表](#)」を参照してください。

出力 ALT + 数字キー: 中国語環境での完全な制御文字出力をサポートします。特定の機能については、[ASCII コード比較表](#) を参照してください。



* 出力ファンクションキー



CTRL キーの組み合わせを出力します



ALT+ 数字キーを出力

6 データ編集

6.1 バーコード ID

AIM ID

AIM は Automatic Identification Manufacturers (自動識別製造者協会) の略称です。AIM ID は、さまざまな標準バーコードの識別コードを定義します (ユーザーは AIM ID をカスタマイズできません)。特定の定義については、付録 C: AIM ID リストを参照してください。コード読み取りモジュールは、デコード後のバーコードデータの前にこの識別コードを追加できます。形式は「`]`」+ 文字「`C`」+ 数字「`0`」です。たとえば、Code 128 の AIM ID は「`]C0`」です。ユーザーは、AIM ID を通じてさまざまなバーコードタイプを識別できます。



* 無効にする



有効にする

Code ID

ユーザーは、Code ID を通じてさまざまなバーコードタイプを識別でき、Code ID は識別に 1 文字を使用します。具体的な定義については、付録 B を参照してください: Code ID リスト



* 無効にする



有効にする

6.2 ターミネーター

ホストが現在の読み取り結果を素早く区別できるように、エンドキャラクタ機能を有効にすることができ、コード読み取りモジュールはデータの出力後に対応するエンドキャラクタを追加します。



無効にする



キャリッジリターンとラインフィード



* 入力



タブ



入力してください

6.3 接頭語

プレフィックススイッチ

プレフィックスは、ユーザーによってカスタマイズされ、出力データに追加される文字列です。「有効」設定コードをスキャンすることで追加できます。プレフィックスをキャンセルする必要がある場合は、「無効」設定コードをスキャンしてください。



* 無効にする



有効にする

プレフィックスコンテンツの設定

プレフィックスの設定には2つの方法があります。方法1では、ユーザーがQRコードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。方法2では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法1:

プレフィックス設定コードの内容形式: >!010800XX を追加します。XX は設定変数、XX は16進数で表し、2文字を1単位として不足分は0で埋められます。任意に重ね合わせることができ、最大10桁のデータプレフィックスをサポートします。

例: プレフィックス文字 A を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16進値は 41 で、設定コードの内容は次のとおりです: >!01080041。

たとえば、プレフィックス文字 A B C を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16進値は 41 42 43 であり、設定コードの内容は次のようになります: >!010800414243。

方法2:

「プレフィックス設定」設定コードをスキャンします



プレフィックス設定

「デジタル設定コード」を2つずつ1グループとして順番にスキャンします。

たとえば、プレフィックス文字 A を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16進値が 41 の場合は、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

たとえば、プレフィックス文字 ABC を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16進値は 414243 で、それぞれ 4、1、4、2、4、3 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します。



もちろん

6.4 サフィックス

サフィックススイッチ

サフィックスは、ユーザーによってカスタマイズされ、出力データに追加される文字列です。「有効」設定コードをスキャンすることで追加できます。サフィックスを解除する必要がある場合は、「無効」設定コードをスキャンしてください。



* 無効にする



有効にする

サフィックスコンテンツの設定

サフィックスの設定には2つの方法があります。方法1では、ユーザーがQRコードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟に使用できます。方法2では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法1:

サフィックス設定コードの内容形式: >!010801XX を追加します。XX は設定変数、XX は16進数で表し、2文字を1単位とし、不足する場合は0を埋めます。任意に重畳可能で、サフィックスは最大10個まで対応します。

例: サフィックス文字 A を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16進値は 41 で、設定コードの内容は次のとおりです: >!01080141。

たとえば、サフィックス文字 ABC を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16進値は 414243 で、設定コードの内容は >!010801414243 となります。

方法2:

「サフィックス設定」設定コードをスキャンします



サフィックス設定

「デジタル設定コード」を2つずつ1グループとして順番にスキャンします。

たとえば、サフィックス文字 A を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16進値が 41 の場合は、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

たとえば、サフィックス文字 ABC を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16進値は 414243 で、それぞれ 4、1、4、2、4、3 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します。



もちろん

6.5 バーコードタイプに基づいてプレフィックスを追加

バーコードタイプに基づいてプレフィックススイッチを追加

プレフィックスは、ユーザーによってカスタマイズされ、出力データに追加される文字列です。「有効」設定コードをスキャンすることで追加できます。プレフィックスをキャンセルする必要がある場合は、「無効」設定コードをスキャンしてください。



* 無効にする



有効にする

バーコードタイプに基づいてプレフィックスコンテンツ設定を追加

プレフィックスの内容を設定するには2つの方法があります。最初の方法では、ユーザーがQRコードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

バーコードの種類に応じてプレフィックスを追加します。設定コードの内容形式は >!010806XXXX です。XXXX は設定変数です。最初の 2 つの XX はバーコードの種類を表します。関連する 16 進値は付録 F に従って確認できます。次の XX は 16 進数で表されます。キャラクターは 2 人で 1 ユニットとなります。足りないものは 0 で埋めます。任意に重ね合わせることができます。最大サポートは 10 桁のデータプレフィックスです。

例: Code 128 バーコード接頭辞文字 A を設定する必要があります。付録 F によれば、Code 128 の 16 進値は 01 です。付録 E の文字比較表を確認してください。文字 A の 16 進値は 41 であるため、設定コードの内容は次のようになります: >!0108060141。

たとえば、Code 128 バーコードプレフィックス文字 ABC を設定する必要があります。付録 F によると、Code 128 の 16 進値は 01 です。付録 E の文字比較表を確認してください。ABC の 16 進文字は、それぞれ 41 42 43 です。設定コードの内容は >!01080601414243 となります。

方法 2:

「プレフィックス設定」設定コードをスキャンします



プレフィックス設定

バーコードの種類を設定し、「番号設定コード」を2つずつグループとして順番に取り読み取ります。

たとえば、Code 128 のプレフィックスを設定する必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、Code 128 のバーコードタイプの 16 進値は 01 で、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

プレフィックス内容を設定し、「デジタル設定コード」を2つずつ1グループとして順番に取り読み取ります。

たとえば、プレフィックス文字 A を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。文字 A の 16 進値は 41 であるため、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を完了します



もちろん

バーコードの種類に基づいてプレフィックスをクリアする

設定されているプレフィックスをクリアします。プレフィックスをクリアするには2つの方法があります。最初の方法では、ユーザーがQRコードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーにとってより柔軟です。2番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

バーコードの種類に応じたクリアプレフィックス設定コードの内容形式は >!010808XX となります。XX は設定変数、XX はバーコードの種類を 16 進数で示し、2 文字を 1 単位とし、不足分は 0 で埋められます。関連する 16 進数の値は付録 F に記載されています。

たとえば、Code 128 バーコードプレフィックスをクリアする必要があります。付録 F によると、Code 128 の 16 進値は 01 であるため、設定コードの内容は >!01080801 になります。

方法 2:

「プレフィックスクリア」設定コードをスキャンします。



プレフィックスをクリア

バーコードの種類をクリアし、「デジタル設定コード」を2つずつグループとして順番にスキャンします。

たとえば、Code 128 プレフィックスをクリアする必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、バーコードタイプ Code 128 の 16 進値は 01 なので、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します。



もちろん

6.6 バーコードタイプに基づいてサフィックスを追加

バーコードタイプに応じてサフィックススイッチを追加

サフィックスは、ユーザーによってカスタマイズされ、出力データに追加される文字列です。「有効」設定コードをスキャンすることで追加できます。サフィックスを解除する必要がある場合は、「無効」設定コードをスキャンしてください。



* 無効にする



有効にする

バーコードタイプに応じたサフィックスコンテンツ設定の追加

サフィックスの内容を設定するには2つの方法があります。最初の方法では、ユーザーがQRコードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

バーコードの種類に応じてサフィックスを追加します。設定コードの内容形式は >!010807XXXX です。このうち、XXXX は設定変数です。最初の 2 つの XX はバーコードの種類を表します。関連する 16 進値は付録 F にあります。次の XX は 16 進数で表されます。キャラクターは 2 人で 1 ユニットとなります。足りないものは 0 で埋めます。任意に重ね合わせることができます。最大サポートされるのは 10 桁のデータ接尾辞です。

たとえば、Code 128 バーコードサフィックス文字 A を設定する必要があります。付録 F によれば、Code 128 の 16 進値は 01 です。付録 E の文字比較表を確認してください。文字 A の 16 進値は 41 であるため、設定コードの内容は >!0108070141 となります。

たとえば、Code 128 バーコードサフィックス文字 A B C を設定する必要があります。付録 F によると、Code 128 の 16 進値は 01 です。付録 E の文字比較表を確認してください。16 進文字 A B C は、それぞれ 41 42 43 です。設定コードの内容は >!01080701414243 となります。

方法 2:

「サフィックス設定」設定コードをスキャンします



サフィックス設定

バーコードの種類を設定し、「番号設定コード」を 2 つずつグループとして順番に読み取ります。

たとえば、Code 128 のサフィックスを設定する必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、Code 128 のバーコードタイプの 16 進値は 01 で、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

サフィックス内容を設定し、「デジタル設定コード」を 2 つずつ 1 グループとして順番に読み取ります。

たとえば、サフィックス文字 A を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。文字 A の 16 進値は 41 であるため、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

バーコードタイプに基づいたクリアサフィックス

設定されているサフィックスをクリアします。サフィックスをクリアするには2つの方法があります。最初の方法では、ユーザーがQRコードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーにとってより柔軟です。2番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

バーコードの種類に応じたサフィックス設定コードのクリアの内容形式は >!010809XX となります。XX は設定変数、XX はバーコードの種類を 16 進数で示し、2 文字を 1 単位とし、不足分は 0 で埋められます。関連する 16 進数の値は付録 F に記載されています。

たとえば、Code 128 バーコードサフィックスをクリアする必要があります。付録 F によると、Code 128 の 16 進値は 01 であるため、設定コードの内容は >!01080901 になります。

方法 2:

「Clear Suffix」設定コードをスキャンします



クリアサフィックス

バーコードの種類をクリアし、「デジタル設定コード」を2つずつグループとして順番にスキャンします。

たとえば、Code 128 サフィックスをクリアする必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、Code 128 のバーコードタイプの 16 進値は 01 で、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

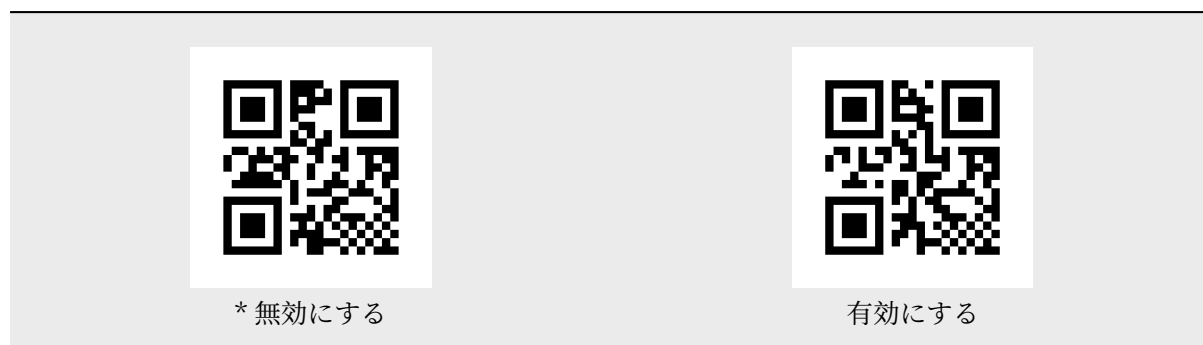


もちろん

6.7 固定文字を非表示にする

この機能は、ユーザーが必要に応じて出力する必要のない文字列を非表示にすることができます。

固定文字スイッチを非表示にする



固定文字設定を非表示にする

固定文字設定を非表示にする方法は2つあります。方法1では、ユーザーがQRコードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟に使用できます。方法2では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法1:

固定文字設定コードの内容を非表示にする形式: >!010802XX。XXは設定変数、XXは16進数で表し、2文字を1単位とし不足分は0を補います。最大20桁まで任意に重ね合わせることができます。

たとえば、隠し文字Aを設定する必要がある場合は、付録Eの文字比較表を確認してください。16進値は41で、設定コードの内容は>!01080241です。

たとえば、隠し文字ABCを設定する必要がある場合は、付録Eの文字比較表を確認してください。16進値は414243で、設定コードの内容は>!010802414243となります。

方法2:

「固定文字非表示」設定コードをスキャンします。



固定文字を非表示にする

「デジタル設定コード」を2つずつ1グループとして順番にスキャンします。

たとえば、文字Aを非表示にする必要がある場合は、付録Eの文字比較表を確認してください。16進値が41の場合は、それぞれ4と1をスキャンします。

例: 改行を非表示にする必要がある場合は、付録Eの文字比較表を確認してください。16進値が0Aの場合は、それぞれ0とAをスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

6.8 長さに基づいてバーコードデータを保持する

ユーザーが必要とするデータを必要に応じてバーコード内に保持できる機能です。

データ維持スイッチ

	
* 無効にする	前方インデックス
	
逆索引	

注釈

前方インデックス（データの先頭から開始位置まで）。逆インデックス（データの後端から開始位置まで）

データの開始位置を保持する

初期設定には2つの方法があります。方法1では、ユーザーがQRコードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーにとってより柔軟です。方法2では、手順に従って本書のセットアップコードをスキャンします。

方法1:

開始位置設定コードの内容形式は>!00102AXXです。XXは設定変数で、10進数の範囲は1～65535です。

たとえば、開始位置が 11 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00102A11 となります。

方法 2:

「開始位置」設定コードをスキャンします



開始位置

「番号設定コード」を読み取り、番号から始まり、対応する番号設定コードを読み取ります。たとえば、11 桁目の場合は、1,1 をスキャンします。100 桁目については、1、0、0 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

データの終了位置を保持する

設定を終了するには 2 つの方法があります。最初の方法では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2 番目の方法は、手順に従って本書のセットアップコードをスキャンします。

方法 1:

終了位置設定コードの内容形式は、>!00102BXX となります。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 1 ～65535 です。

例: 終了位置を 50 に設定した場合、設定コードの内容は >!00102B50 となります。

方法 2:

「終了位置」設定コードをスキャンします



終了位置

「番号設定コード」を末尾の番号から順に読み取り、対応する番号設定コードを読み取ります。たとえば、50 番目の位置の場合は、5,0 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

6.9 長さに基づいてバーコードデータを非表示にする

ユーザーのニーズに応じて、バーコード内の不要なデータを非表示にする機能です。

バーコードデータを非表示にするスイッチ



* 無効にする



前方インデックス



逆索引

注釈

前方インデックス（データの先頭から開始位置まで）。逆インデックス（データの後端から開始位置まで）

バーコードデータの開始位置を隠す

初期設定には2つの方法があります。方法1では、ユーザーがQRコードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーにとってより柔軟です。方法2では、手順に従って本書のセットアップコードをスキャンします。

方法1:

開始位置設定コードの内容形式は >!001027XX となります。このうち、XX は設定変数で、10進数の範囲は 1~65535 です。

たとえば、開始位置が 11 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00102711 となります。

方法2:

「開始位置」設定コードをスキャンします



開始位置

「番号設定コード」を読み取り、番号から始まり、対応する番号設定コードを読み取ります。たとえば、11桁目の場合は、1,1をスキャンします。100桁目については、1、0、0をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

バーコードデータの終了位置を非表示にする

設定を終了するには2つの方法があります。最初の方法では、ユーザーがQRコードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2番目の方法は、手順に従って本書のセットアップコードをスキャンします。

方法1:

終了位置設定コードの内容形式は、>!001028XX となります。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 1～65535 です。

例: 終了位置を 50 に設定した場合、設定コードの内容は >!00102850 となります。

方法 2:

「終了位置」設定コードをスキャンします



終了位置

「番号設定コード」を末尾の番号から順に読み取り、対応する番号設定コードを読み取ります。たとえば、11 番目の位置の場合は、1,1 をスキャンします。

100 番目の位置については、1,0,0 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

6.10 バーコードタイプに基づいて任意の長さのバーコードデータを非表示にする

ニーズに応じて、バーコードの種類に応じてバーコード内の不要なデータを非表示にする機能です。

バーコードタイプに基づいてバーコードデータスイッチを非表示にする

	
* 無効にする	前方インデックス
	
逆索引	

注釈

前方インデックス (データの先頭から開始位置まで)。逆インデックス (データの後端から開始位置まで)

バーコードの種類に基づいてデータの開始位置を非表示にする

初期設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーにとってより柔軟です。方法 2 では、手順に従って本書のセットアップコードをスキャンします。

方法 1:

バーコードの種類に応じた隠しデータの開始位置の内容形式は >!01080AXXXX です。XXXX は設定変数です。最初の 2 つの XX はバーコードの種類を表します。関連する 16 進値は付録

Fに従って確認できます。次のXXは16進数で表されます。キャラクターは2人で1ユニットとなります。残りの文字は0で埋められ、長さの範囲は0x0000～0xFFFFです。

たとえば、Code 128の開始位置を非表示にして11に設定する必要があります。付録Fによると、Code 128の16進値は01で、11の16進値は0Bです。設定コードの内容は>!01080A010Bとなります。

方法 2:

「バーコードの種類と開始位置」設定コードをスキャンします



バーコードの種類と開始位置

バーコードの種類を設定し、「番号設定コード」を2つずつグループとして順番に読み取ります。

例: Code 128を非表示にする必要があります。付録Fのバーコードタイプによると、Code 128のバーコードタイプの16進値は01であるため、それぞれ0と1をスキャンします。

開始位置を設定し、「デジタル設定コード」を2つずつグループとして順番にスキャンします。

ここでの使用法は16進数を指します。たとえば、11桁目は16進数の0B、スキャン0、Bです。100番目の桁、16進数64、スキャン6、4。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

バーコードの種類に基づいてデータの終了位置を非表示にする

設定を終了するには2つの方法があります。最初の方法では、ユーザーがQRコードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2番目の方法は、手順に従って本書のセットアップコードをスキャンします。

方法 1:

バーコードの種類に応じた隠しデータの終了位置の内容形式は>!01080BXXXXとなります。XXXXは設定変数です。最初の2つのXXはバーコードの種類を表します。関連する16進値は付録Fに従って確認できます。次のXXは16進数で表されます。キャラクターは2人で1ユニットとなります。不足しているものは0で埋められます。長さの範囲は0x0000～0xFFFFです。

例: Code 128 の終了位置を非表示にして 100 に設定する必要があります。付録 F によると、Code 128 の 16 進値は 01、100 の 16 進値は 64 です。その場合、設定コードの内容は次のようになります: >!01080B0164。

方法 2:

「バーコードの種類と終了位置」設定コードをスキャンします



バーコードの種類と終了位置

バーコードの種類を設定し、「番号設定コード」を 2 つずつグループとして順番に読み取ります。

例: Code 128 を非表示にする必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、Code 128 のバーコードタイプの 16 進値は 01 であるため、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

終了位置を設定し、「デジタル設定コード」を 2 つずつ順番に読み取ります。

ここでの使用法は 16 進数を指します。たとえば、11 桁目は 16 進数の 0B、スキャン 0、B です。100 番目の桁、16 進数 64、スキャン 6、4。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

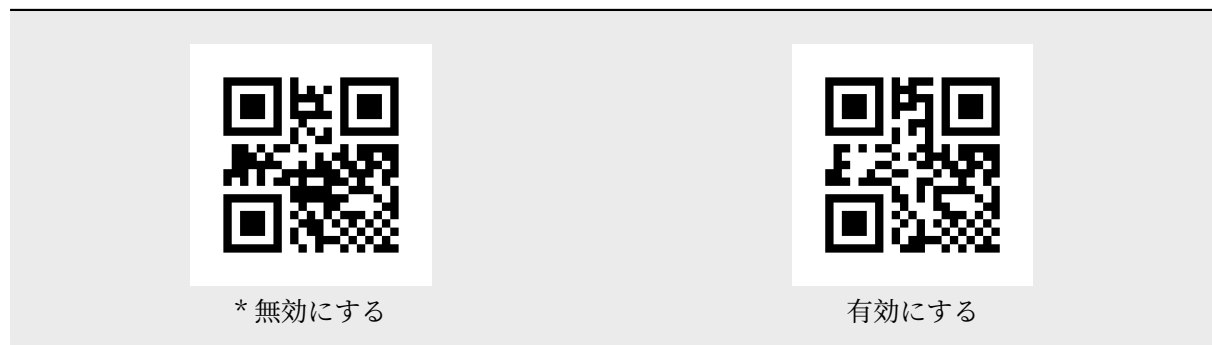


もちろん

6.11 バーコードの種類に基づいて、バーコードの下部にある任意の長さのデータを非表示にします

この機能は、必要に応じて、バーコードの種類に応じて、ヘッダー内の不要な長さのバーコードデータを非表示にすることができます。

バーコードの種類に応じて、バーコードの下部にある任意の長さのデータスイッチを非表示にします



バーコードの種類に応じて、バーコードの下部を任意の長さに非表示にします。

長さを設定するには2つの方法があります。方法1では、ユーザーがQRコードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーにとってより柔軟です。方法2では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法1:

バーコードタイプに応じて、バーコードの下部に隠される任意の長さのデータの長さの形式は次のとおりです: >!01080CXXXX。このうち、XXXXは設定変数です。最初の2つのXXはバーコードの種類を表します。関連する16進値は付録Fにあります。次のXXは16進数で表されます。キャラクターは2人で1ユニットとなります。足りないものは0で埋められます。長さの範囲は0x0000-0xFFFFです。

例: Code 128のヘッダー長15のデータを非表示にする必要があります。付録Fによると、Code 128の16進数値は01、16進数値の15は0Fです。設定コードの内容は>!01080C010Fとなります。

方法2:

「バーコードの種類と長さ」設定コードをスキャンします



バーコードの種類と長さ

バーコードの種類を設定し、「番号設定コード」を2つずつグループとして順番に読み取ります。

例: Code 128 を非表示にする必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、Code 128 のバーコードタイプの 16 進値は 01 であるため、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

長さを設定し、「デジタル設定コード」を2つずつ1グループとして順番にスキャンします。

ここでの使用法は 16 進数を指します。たとえば、長さが 11 の場合、16 進数の 0B、スキャン 0、B。長さが 100、16 進数の 64 の場合、6,4 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

6.12 バーコードの種類に応じて、バーコードの末尾にある任意の長さのデータを非表示にします。

必要に応じて、バーコードの種類に応じて末尾の不要な長さのバーコードデータを非表示にする機能です。

バーコードの種類に応じて、バーコードの末尾にある任意の長さのデータスイッチを非表示にします。



* 無効にする



有効にする

バーコードの種類に応じて、任意の長さのバーコード末尾を非表示にします

長さを設定するには2つの方法があります。方法1では、ユーザーがQRコードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーにとってより柔軟です。方法2では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法1:

バーコードの種類に応じて、バーコードの末尾にある任意の長さのデータを非表示にする長さの形式は次のとおりです: >!01080DXXXX。XXXXは設定変数です。最初の2つのXXはバーコードの種類を表します。関連する16進値は付録Fに従って確認できます。次のXXは16進数で表されます。キャラクターは2人で1ユニットとなります。不足しているものは0で埋められます。長さの範囲は0x0000～0xFFFFです。

例: Code 128の末尾長12のデータを非表示にする必要があります。付録Fによると、Code 128の16進値が01、12の16進値が0Cである場合、設定コードの内容は>!01080D010Cになります。

方法2:

「バーコードの種類と長さ」設定コードをスキャンします



バーコードの種類と長さ

バーコードの種類を設定し、「番号設定コード」を2つずつグループとして順番に読み取ります。

例: Code 128を非表示にする必要があります。付録Fのバーコードタイプによると、Code 128のバーコードタイプの16進値は01であるため、それぞれ0と1をスキャンします。

長さを設定し、「デジタル設定コード」を2つずつ1グループとして順番にスキャンします。

ここでの使用法は16進数を指します。たとえば、長さが11の場合、16進数の0B、スキャン0、B。長さが100、16進数の64の場合、6,4をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

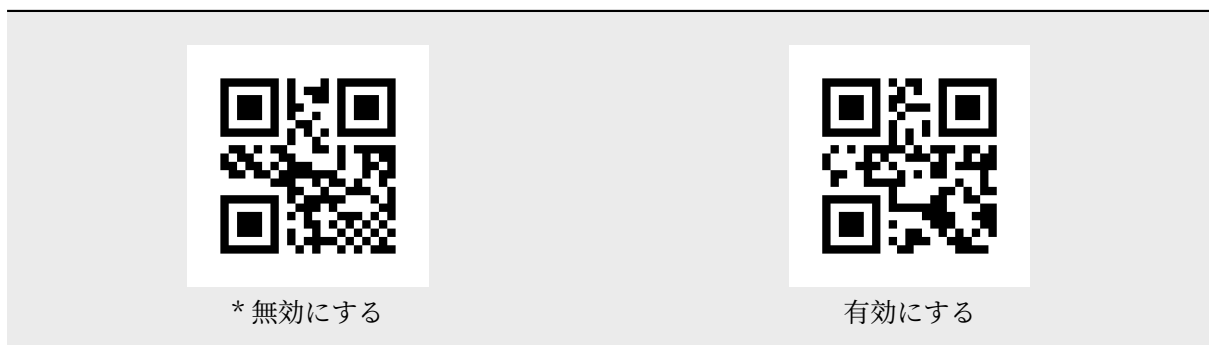


もちろん

6.13 カスタムデータを挿入する

必要に応じてバーコードデータ内の任意の位置にユーザー定義データを挿入できる機能です。

カスタムデータスイッチを挿入



カスタムデータ

データをカスタマイズするには2つの方法があります。最初の方法では、ユーザーがQRコードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーを設定する傾向があり、使用がより柔軟です。2番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

カスタム挿入データ設定コードの内容形式: `>!010803XX`。XX は設定変数、XX は16進数で表し、2文字を1単位とし不足分は0を埋めます。任意に重ね合わせることができ、最大20桁のカスタムデータに対応しています。

例: カスタムデータ A を挿入する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16進値は41で、設定コードの内容は次のとおりです: `>!01080341`。

たとえば、カスタムデータ ABC を挿入する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16進値は414243で、設定コードの内容は `>!010803414243` となります。

方法 2:

「カスタムデータ」設定コードをスキャンします



カスタムデータ

「デジタル設定コード」を2つずつ1グループとして順番にスキャンします。

例: カスタムデータ A を挿入する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値が 41 の場合は、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

たとえば、カスタムデータ ABC を挿入する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 414243 で、それぞれ 4、1、4、2、4、3 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

挿入位置

挿入位置を設定するには2つの方法があります。最初の方法では、ユーザーがQRコードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

位置設定コードの内容形式: >!00102EXX を挿入します。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 1 ~ 65535 です。

たとえば、挿入位置が 11 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00102E11 となります。

方法 2:

「挿入位置」設定コードをスキャンします。



挿入位置

「デジタル設定コード」を読み取り、位置を挿入し、対応するデジタル設定コードを読み取ります。たとえば、11 番目の位置の場合は、1,1 をスキャンします。

100 番目の位置については、1,0,0 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

6.14 データの置き換え

この関数は、要件に応じて元の文字列のデータを任意のデータに置き換えることができます。

データ置換スイッチ



置き換えられたデータ設定

置き換えるデータを設定するには2つの方法があります。最初の方法では、ユーザーがQRコードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

置換データ設定コードの内容形式は >!010804XX となります。XX は設定変数で、XX は16進数で表されます。2文字を1単位とし、足りない場合は0を補います。任意に重ね合わせることができ、最大20桁までサポートします。

例: 置換データ A の場合、付録 E の文字比較表を確認してください。16進数値は41、設定コードの内容は >!01080441 です。

例: 置換データ ABC の場合、付録 E の文字比較表を確認してください。16進値は414243で、設定コードの内容は >!010804414243 です。

方法 2:

「置き換えられたデータ」設定コードをスキャンします



置き換えられるデータ

「デジタル設定コード」を2つずつ1グループとして順番にスキャンします。

例: 置換されたデータ A については、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値が 41 の場合は、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

たとえば、置換されたデータが改行の場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進数が 0A の場合は、それぞれ 0 と A をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

データ設定を置き換える

データ設定を置き換えるには2つの方法があります。方法1では、ユーザーがQRコードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。方法2では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法1:

置換データ設定コードの内容形式: >!010805XX。XXは設定変数、XXは16進数で表し、2文字を1単位とし、足りない場合は0を埋めます。任意に重ね合わせることができ、最大20桁までサポートします。

例: データ A が元のデータを置き換える場合、付録 E の文字比較表を確認してください。16進値は 41 で、設定コードの内容は >!01080541 です。

例: データ ABC が元のデータを置き換える場合、付録 E の文字比較表を確認してください。16進値は 414243 であり、設定コードの内容は >!010805414243 です。

方法2:

「データの置換」セットアップコードをスキャンします



データを置き換える

「デジタル設定コード」を2つずつ1グループとして順番にスキャンします。

例: データ A は元のデータを置き換えます。付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値が 41 の場合は、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

例: 元のデータを改行データに置き換えるには、付録 E の文字比較表を確認します。16 進数が 0A の場合は、それぞれ 0 と A をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

6.15 改行と復帰

改行 (\n) と復帰改行 (\r\n) は両方とも復帰 (\r) に変換されます。



* 無効にする



有効にする

6.16 URL スイッチ

商品のバーコード読み取り時や特殊なアプリケーションにおいて、URL 情報付きバーコードの誤読を防止するため、必要に応じて URL 情報付きバーコードの認識を無効にすることができます。



* URL コードを有効にする



URL コードを無効にする

6.17 請求書発行機能

このモジュールを請求書発行システムで正常に使用するために、ユーザーは以下の設定コードをスキャンすることで請求書コード形式を変換して出力することができます。

注釈

この機能は Alipay QR コード請求をサポートしていますが、WeChat QR コード請求はサポートしていません。

請求機能スイッチ



* 無効にする



有効にする

請求書の種類



* 特別チケット



人気投票

6.18 GS1 ルールが有効になりました

GS1 ルールを有効にし、AI セグメントをカッコで囲みます。

 * 無効にする	 有効にする
--	---

7 キャラクター設定

7.1 文字セット

入力文字セット

コード読み取りモジュールがバーコードデータの文字セットを正しく知るために、「入力文字セット」を読み取ることで設定することができます。

 * 自動	 GBK
 UTF8	 ASCII
 Shift-JIS 日本語	

出力文字セット

ホストの文字セットのニーズに合わせて、「出力文字セット」を読み込んで設定することができます。



8 バーコード設定

8.1 バーコードのグローバル操作

グローバルスイッチ



1次元コードグローバルスイッチ

 無効にする	 有効にする
 * デフォルト	

QRコードグローバルスイッチ

 無効にする	 有効にする
 * デフォルト	

バーコードのセキュリティレベル

極端な状況下でのバーコード読み取りで起こり得るコードエラーの問題を解決するために、ここでは5つのセキュリティレベルが提供されています。レベルが高くなるほど、読書体験は悪化します。



マルチコード識別

特殊なアプリケーションシナリオでは、複数のバーコードを同時に読み取る必要があります。以下の設定コードを読み取ることで、マルチコード読み取りの有効/無効を切り替えます。

複数のコードを読み取る必要がある



複数のコードを読み取る

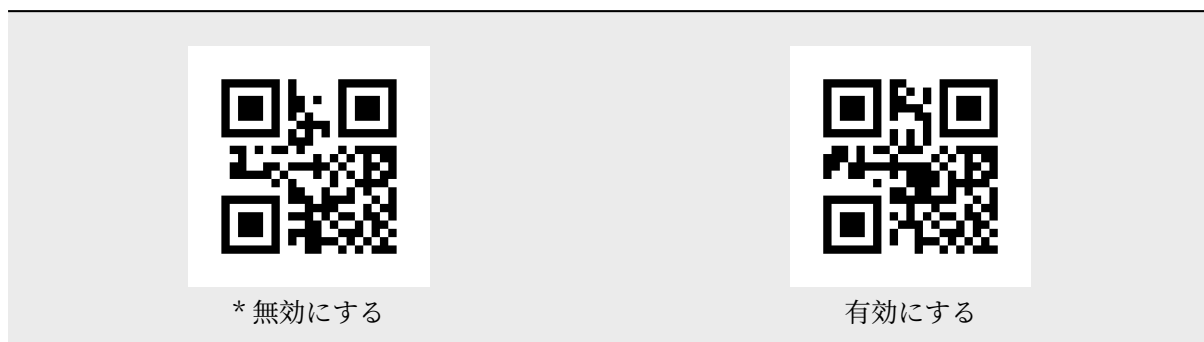


グローバル反転カラスイッチ

以下の設定コードを読み込むことで、バーコード反転読み取りの有効/無効を切り替えます。

注釈

グローバル反転カラスイッチは、読み取り機器のパフォーマンスに大きな影響を与えます。一般的に使用されるバーコードには、個別の反転カラスイッチがあります。個別にオンにすることをお勧めします。



部分的なカラー反転スイッチ

Code 128 逆色スイッチ

Code 128 バーコードの反転カラー読み取りを有効または無効にするには、次の設定コードを読み取ります。この設定は GS1-128 にも有効です



* 無効にする



有効にする

EAN/UPC 色反転スイッチ

以下の設定コードを読み込むことで、EAN/UPC バーコードの反転カラー読み取りを有効 / 無効にできます。



* 無効にする



有効にする

ITF25 反転カラスイッチ

以下の設定コードを読み込むと、ITF25 バーコードの反転カラー読み取りを有効/無効にできます。



* 無効にする



有効にする

Code 39 逆色スイッチ

Code 39 バーコードの反転カラー読み取りを有効または無効にするには、次の設定コードを読み取ります。



* 無効にする



有効にする

Codabar 反転カースイッチ

Codabar バーコードの反転カラー読み取りを有効または無効にするには、次の設定コードを読み取ります。



* 無効にする



有効にする

Code 93 逆色スイッチ

以下の設定コードを読み取って、Code 93 バーコードの反転カラー読み取りを有効または無効にします。



* 無効にする



有効にする

8.2 Code 128

Code 128 スイッチ

以下の設定コードを読み取って、Code 128 バーコードの読み取りを有効/無効にします。



Code 128 最小長

Code 128 の最小長を設定するには 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。方法 2 では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法 1:

Code 128 設定コードの内容の最小長の形式: >!000012XX。XX は 0 ~255 の 10 進数の設定変数です。

例: Code 128、最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0000122。

例: Code 128、最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!00001212。

方法 2:

「Code 128 最小長」設定コードをスキャンします。



Code 128 最小長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

Code 128 最大長

Code 128 の最大長を設定するには 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。方法 2 では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法 1:

Code 128 設定コードの内容の最大長の形式: >!000013XX。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ~ 255 です。

例: Code 128 最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0000129。

例: Code 128 最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!00001220。

方法 2:

「Code 128 最大長」設定コードをスキャンします。



Code 128 最大長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

Code 128 セキュリティレベル

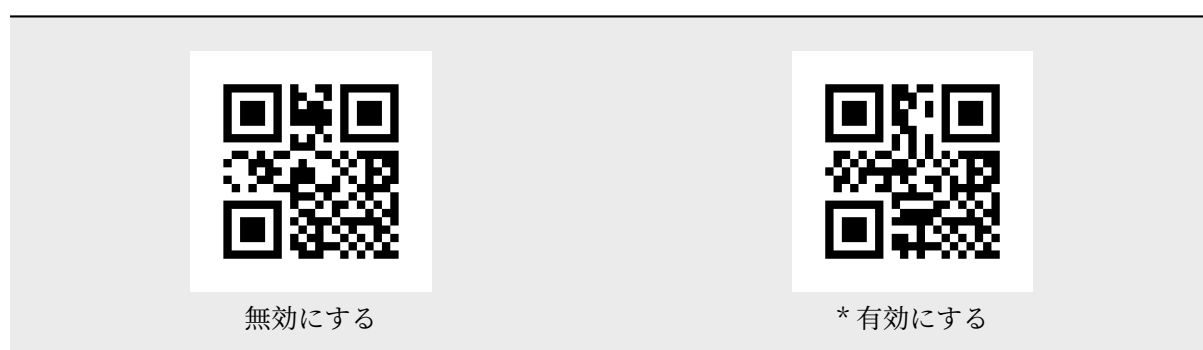
バーコードのセキュリティレベルが高いほどエラー率は低くなり、コード読み取り効果にもある程度の影響が出ます。



8.3 UCC/EAN-128/GS1-128

GS1 128 スイッチ

以下の設定コードを読み取って、GS1 128 バーコードの読み取りを有効/無効にします。



GS1 最小長 128

GS1 128 の最小長を設定するには 2 つの方法があります。最初の方法では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。この方法は、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2 番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

GS1 128 最小長設定コードの内容形式: >!000022XX。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ~255 です。

例: GS1 128 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります:
>!0000222。

例: GS1 128 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります:
>!00002212。

方法 2:

「GS1 128 最小長」設定コードをスキャンします。



GS1 最小長 128

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

GS1 最大長 128

GS1 128 の最大長を設定するには 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。この方法は、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。方法 2 では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法 1:

GS1 128 設定コードの内容の最大長の形式: >!000023XX。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ~ 255 です。

例: GS1 128 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります:
>!0000239。

例: GS1 128 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります:
>!00002320。

方法 2:

「GS1 128 最大長」設定コードをスキャンします



GS1 最大長 128

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最大長が9桁の場合は9をスキャンします。最大長が20桁の場合、2,0をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

8.4 EAN-8

EAN-8 スイッチ

以下の設定コードを読み取って、EAN-8 バーコードの読み取りを有効/無効にします。



無効にする



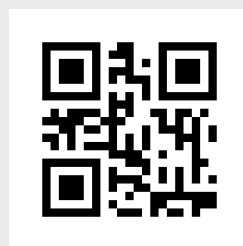
* 有効にする

EAN-8 チェックディジットの送信

以下の設定コードを読み出して、EAN-8 がチェックディジットを送信するかどうかを設定します。



無効にする



* 有効にする

EAN-8 2桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み込んで、EAN-8 が 2 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

EAN-8 5桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み込んで、EAN-8 が 5 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

追加コード EAN-8 による読み取り専用

追加コードで EAN-8 のみを読み取るかどうかを設定するには、次の設定コードを読み取ります。



* 無効にする



有効にする

8.5 EAN-13

EAN-13 スイッチ

以下の設定コードを読み取って、EAN-13 バーコードの読み取りを有効/無効にします。



無効にする



* 有効にする

EAN-13 チェックディジットの送信

以下の設定コードを読み出して、EAN-13 がチェックディジットを送信するかどうかを設定します。



無効にする



* 有効にする

EAN-13 2 桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み込んで、EAN-13 が 2 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

EAN-13 5 桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み込んで、EAN-13 が 5 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

追加コード EAN-13 による読み取り専用

以下の設定コードを読み込み、追加コードで EAN-13 のみを読み込むかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

8.6 ISSN

以下の設定コードを読み取って、ISSN バーコードの読み取りを有効または無効にします。

i 注釈

ISSN を無効にすると、ISSN は EAN-13 として扱われます



* 無効にする



有効にする

8.7 ISBN

以下の設定コードを読み取って、ISBN バーコードの読み取りを有効または無効にします。

i 注釈

ISBN を無効にすると、ISBN は EAN-13 として扱われます。



* 無効にする



有効にする

8.8 UPC-E

UPC-E スイッチ

以下の設定コードを読み取って、UPC-E バーコードの読み取りを有効/無効にします。



無効にする



* 有効にする

UPC-E チェックディジットの送信

以下の設定コードを読み出して、UPC-E がチェックデジットを送信するかどうかを設定します。



無効にする



* 有効にする

UPC-E 2 桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み込んで、UPC-E が 2 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

UPC-E 5 桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み込んで、UPC-E が 5 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

追加コード **UPC-E** による読み取り専用

以下の設定コードを読み込んで、追加コード UPC-E のみを読み込むかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

伝送方式キャラクタ「0」

以下の設定コードを読み出して、UPC-E がシステムキャラクタ「0」を送信するかどうかを設定します。



無効にする



* 有効にする

UPC-E から UPC-A

以下の設定コードを読み込んで、UPC-E を UPC-A に変換するかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

UPC-E1 スイッチ

以下の設定コードを読み出して、UPC-E1 を読み込むかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

国文字「0」を送信

UPC-E が各国文字「0」を送信するかどうかを設定するには、以下の設定コードを読み出します。



* 無効にする



有効にする

8.9 UPC-A

UPC-A スイッチ

以下の設定コードを読み取って、UPC-A バーコードの読み取りを有効/無効にします。



無効にする



* 有効にする

UPC-A チェックディジットの送信

以下の設定コードを読み出して、UPC-A がチェックデジットを送信するかどうかを設定します。



無効にする



* 有効にする

UPC-A 2桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み込んで、UPC-A が 2 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

UPC-A 5桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み込んで、UPC-A が 5 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

追加コード **UPC-A** による読み取り専用

以下の設定コードを読み込んで、追加コード UPC-A のみを読み込むかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

伝送方式キャラクタ「0」

UPC-A がシステムキャラクタを送信するかどうかを設定するには、次の設定コードを読み取ります。



無効にする



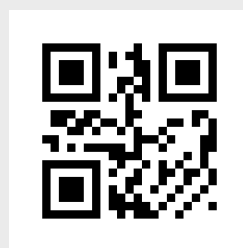
* 有効にする

国文字「0」を送信

UPC-E が各国文字「0」を送信するかどうかを設定するには、以下の設定コードを読み出します。(UPC-A を EAN-13 に変換するかどうかを設定します)



* 無効にする



有効にする

8.10 ITF25

ITF25 スイッチ

以下の設定コードを読み込んで、ITF25 バーコードの読み取りを有効/無効にします。



無効にする



* 有効にする

ITF25 チェックデジット検証

以下の設定コードを読み出して、ITF25 チェックデジットの検証を行うかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

ITF25 チェックデジット送信

以下の設定コードを読み出して、ITF25 チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。



* 無効にする



有効にする

ITF25 の最小長さ

ITF25 の最小長を設定するには 2 つの方法があります。最初の方法では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2 番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

ITF25 最小長設定コード内容形式: >!0000B3XX。XX は 0 ~ 255 の 10 進数の設定変数です。たとえば、ITF25 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0000B32 になります。

たとえば、ITF25 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0000B312 になります。

方法 2:

「ITF25 最小長」設定コードをスキャンします。



ITF25 の最小長さ

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

ITF25 最大長

ITF25 の最大長を設定するには 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。方法 2 では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法 1:

ITF25 最大長設定コード内容形式: >!0000B4XX。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ~ 255 です。

たとえば、ITF25 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0000B49 になります。

たとえば、ITF25 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0000B420 となります。

方法 2:

「ITF25 最大長」設定コードをスキャンします。



ITF25 最大長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

ブラジル政府/銀行コード



* 無効にする



有効にする

8.11 NEC25/COOP25

NEC25 スイッチ

以下の設定コードを読み取って、NEC25 のバーコード読み取りを有効/無効にします。



* 無効にする



有効にする

NEC25 チェックデジット検証

以下の設定コードを読み出して、NEC25 チェックデジットの検証を行うかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

NEC25 チェックディジット送信

以下の設定コードを読み出して、NEC25 チェックディジットを送信するかどうかを設定します。

注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。



* 無効にする



有効にする

NEC25 最小長

NEC25 の最小長を設定するには 2 つの方法があります。最初の方法では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2 番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

NEC25 最小長設定コードの内容形式: >!000103XX。XX は 0 ～255 の 10 進数の設定変数です。

たとえば、NEC25 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001032 になります。

たとえば、NEC25 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00010312 になります。

方法 2:

「NEC25 最小長」設定コードをスキャンします。



NEC25 最小長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

NEC25 最大長

NEC25 の最大長を設定するには 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。方法 2 では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法 1:

NEC25 の最大長設定コードの内容形式: >!000104XX。XX は 0 ～255 の 10 進数の設定変数です。

例: NEC25 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001049 となります。

例: NEC25 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00010420 となります。

方法 2:

「NEC25 最大長」設定コードをスキャンします。



NEC25 最大長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

8.12 MATRIX25

マトリックス 25 スイッチ

MATRIX25 のバーコード読み取りを有効/無効にするには、以下の設定コードを読み取ります。



* 無効にする



有効にする

MATRIX25 チェックデジットの検証

以下の設定コードを読み出して、MATRIX25 のチェックデジットを検証するかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

MATRIX25 チェックデジット送信

以下の設定コードを読み出して、MATRIX25 チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。



* 無効にする



有効にする

MATRIX25 の最小長

MATRIX25 の最小長を設定するには2つの方法があります。方法1では、ユーザーがQRコードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟に使用できます。方法2では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法1:

MATRIX25 最小長設定コードの内容形式: >!000113XX。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ~ 255 です。

たとえば、MATRIX25 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001132 になります。

たとえば、MATRIX25 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00011312 となります。

方法2:

「MATRIX25 最小長」設定コードをスキャンします。



MATRIX25 の最小長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

MATRIX25 の最大長

MATRIX25 の最大長を設定するには 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。方法 2 では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法 1:

MATRIX25 の最大長設定コードの内容形式: >!000114XX。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ~ 255 です。

たとえば、MATRIX25 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001149 となります。

たとえば、MATRIX25 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00011420 となります。

方法 2:

「MATRIX25 最大長」設定コードをスキャンします。



MATRIX25 の最大長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

8.13 IND25

IND25 スイッチ

以下の設定コードを読み込むことで、IND25 バーコードの読み取りを有効/無効にできます。



* 無効にする



有効にする

IND25 の最小長さ

IND25 の最小長を設定するには 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。方法 2 では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法 1:

IND25 最小長設定コードの内容形式: >!000123XX。XX は 0 ～255 の 10 進数の設定変数です。

たとえば、IND25 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001232 になります。

たとえば、IND25 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00012312 になります。

方法 2:

「IND25 最小長」設定コードをスキャンします。



IND25 の最小長さ

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

IND25 の最大長

IND25 の最大長を設定するには 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟に使用できます。方法 2 では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法 1:

IND25 最大長設定コード内容形式: >!000124XX。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ～ 255 です。

たとえば、IND25 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001249 となります。

たとえば、IND25 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00012420 となります。

方法 2:

「IND25 最大長」設定コードをスキャンします。



IND25 の最大長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

8.14 STD25

STD25 スイッチ

STD25 バーコード読み取りを有効/無効にするには、以下の設定コードを読み出します。



STD25 最小長さ

STD25 の最小長を設定するには 2 つの方法があります。最初の方法では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2 番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

STD25 最小長設定コード内容形式: >!000133XX。XX は 0 ~ 255 の 10 進数の設定変数です。

例: STD25 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001332 となります。

例: STD25 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00013312 となります。

方法 2:

「STD25 最小長」設定コードをスキャンします。



STD25 最小長さ

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

STD25 最大長

STD25 の最大長を設定するには 2 つの方法があります。最初の方法では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2 番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

STD25 最大長設定コード内容形式: >!000134XX。XX は 0 ~ 255 の 10 進数の設定変数です。

例: STD25 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001349 となります。

例: STD25 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00013420 となります。

方法 2:

「STD25 最大長」設定コードをスキャンします。



STD25 最大長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

8.15 Code 39

Code 39 スイッチ

以下の設定コードを読み取って、Code 39 バーコードの読み取りを有効/無効にします。

	
無効にする	* 有効にする

Code 39 チェックデジットの検証

以下の設定コードを読み出して、Code 39 チェックデジットを検証するかどうかを設定します。

	
* 無効にする	有効にする

Code 39 チェックディジットの送信

以下の設定コードを読み出して、Code 39 チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

i 注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。



* 無効にする



有効にする

Code 39 スタートキャラクタ/エンドキャラクタの送信

以下の設定コードを読み込んで、Code 39 開始キャラクタ/終了キャラクタを送信するかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

Code 39 フル ASCII スイッチ

以下の設定コードを読み取って、Code 39 FULL ASCII バーコードの読み取りを有効または無効にします。



* 無効にする



有効にする

Code 39 最小長

Code 39 の最小長を設定するには 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。方法 2 では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法 1:

Code 39 設定コード内容の最小長の形式: >!000145XX。XX は 0 ～255 の 10 進数の設定変数です。

例: Code 39、最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0001452。

例: Code 39、最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!00014512。

方法 2:

「Code 39 最小長」設定コードをスキャンします。



Code 39 最小長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

Code 39 最大長

Code 39 の最大長を設定するには 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。方法 2 では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法 1:

Code 39 設定コードの内容の最大長の形式: >!000146XX。XX は 0 ～255 の 10 進数の設定変数です。

例: Code 39 最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0001469。

例: Code 39 最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります:
>!00014620。

方法 2:

「Code 39 最大長」設定コードをスキャンします。



Code 39 最大長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



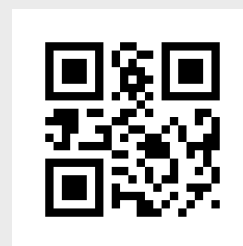
もちろん

コード 32 スイッチ

次の設定コードを読み取って、Code 39 の有効/無効を Code 32 設定に変換します。



* 無効にする



有効にする

コード 32 プレフィックス

以下の設定コードを読み取って、Code 32 プレフィックスを送信するかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

Code 32 チェックディジットの検証

以下の設定コードを読み取って、Code32 チェックデジットを検証するかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

Code 32 チェックディジットの送信

以下の設定コードを読み出して、Code32 チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。



* 無効にする



有効にする

8.16 Codabar

コードバースイッチ

以下の設定コードを読み取って、Codabar バーコードの読み取りを有効または無効にします。



* 無効にする



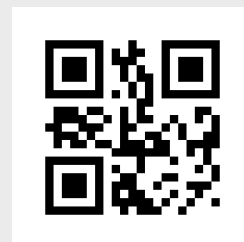
有効にする

Codabar チェックデジットの検証

以下の設定コードを読み出して、Codabar チェックデジットの検証を行うかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

Codabar チェックディジットの送信

以下の設定コードを読み出して、Codabar チェックディジットを送信するかどうかを設定します。

i 注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。



* 無効にする



有効にする

Codabar スタートキャラクタ/エンドキャラクタ送信

以下の設定コードを読み出して、Codabar のスタートキャラクタ/エンドキャラクタを送信するかどうかを設定します。



無効にする



* 有効にする

Codabar の開始文字/終了文字の形式

以下の設定コードを読み込んで、Codabar の開始文字/終了文字の形式を設定します。



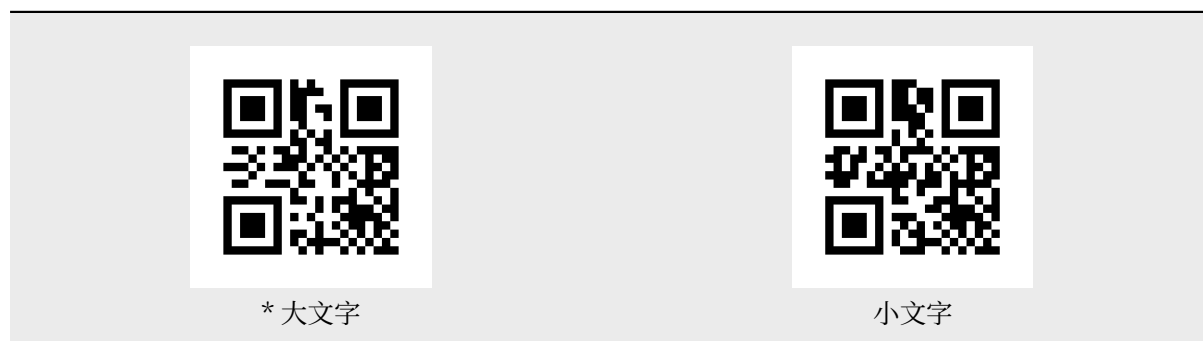
* 通常の ABCD 形式



ABCD/TN*E 形式

Codabar の開始文字/終了文字の大文字と小文字の区別

以下の設定コードを読み込んで、Codabar の開始文字/終了文字を大文字にするか小文字にするかを設定します。



コーダバーの最小長

Codabar の最小長を設定するには 2 つの方法があります。最初の方法では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2 番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

Codabar の最小長設定コードの内容形式: >!000156XX。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ～255 です。

たとえば、Codabar の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001562 になります。

たとえば、Codabar の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00015612 になります。

方法 2:

「Codabar Minimum Length」設定コードをスキャンします。



コーダバーの最小長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

コーダバーの最大長

Codabar の最大長を設定するには 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成する必要がありますが、これはより多くのユーザーにとってより柔軟です。方法 2 では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法 1:

Codabar 最大長設定コードの内容形式: >!000157XX。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ~255 です。

たとえば、Codabar の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001579 になります。

たとえば、Codabar の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00015720 となります。

方法 2:

「Codabar 最大長」設定コードをスキャンします。



コーダバーの最大長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

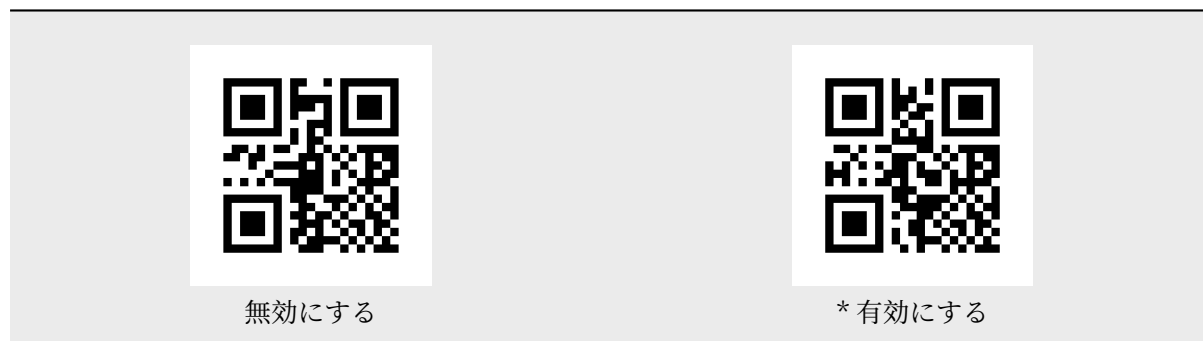


もちろん

8.17 Code 93

コード 93 スイッチ

以下の設定コードを読み取って、Code 93 バーコードの読み取りを有効または無効にします。



コード 93 の最小長

Code 93 の最小長を設定するには 2 つの方法があります。最初の方法では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。この方法は、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2 番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

コード 93 設定コードの内容の最小長の形式: >!000163XX。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ~ 255 です。

例: コード 93 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0001632。

例: コード 93 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!00016312。

方法 2:

「Code 93 Minimum Length」設定コードをスキャンします。



コード 93 の最小長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

コード 93 の最大長

Code 93 の最大長を設定するには 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーにとってより柔軟です。方法 2 では、手順に従って本書の設定コードを読み取ってください。

方法 1:

コード 93 の最大長設定コードの内容形式: >!000164XX。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ~ 255 です。

例: コード 93 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0001649。

たとえば、Code 93 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00016420 となります。

方法 2:

「Code 93 最大長」設定コードをスキャンします。



コード 93 の最大長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

8.18 Code 11

コード 11 スイッチ

以下の設定コードを読み取って、Code 11 バーコードの読み取りを有効または無効にします。



* 無効にする



有効にする

コード 11 チェックディジットの検証

以下の設定コードを読み出して、コード 11 のチェックデジットを検証するかどうかを設定します。



* 検証なし



1 ビットチェックサム



2 桁のチェックサム

Code 11 チェックディジットの送信

以下の設定コードを読み出して、Code11 チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

i 注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。



* 無効にする



有効にする

コード 11 の最小長

コード 11 の最小長を設定するには 2 つの方法があります。最初の方法では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。この方法は、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2 番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

コード 11 設定コードの内容の最小長の形式: >!000173XX。XX は 0 ～255 の 10 進数の設定変数です。

たとえば、コード 11 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001732 になります。

たとえば、コード 11 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00017312 になります。

方法 2:

「コード 11 最小長」設定コードをスキャンします。



コード 11 の最小長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

コード 11 の最大長

コード 11 の最大長を設定するには 2 つの方法があります。最初の方法では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。この方法は、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2 番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

コード 11 最大長設定コードの内容形式: >!000174XX。XX は 0 ~255 の 10 進数の設定変数です。

たとえば、コード 11 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001749 となります。

たとえば、コード 11 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00017420 となります。

方法 2:

「コード 11 最大長」設定コードをスキャンします。



コード 11 の最大長

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

8.19 MSI Plessey

MSI プレッシースイッチ

MSI Plessey バーコード読み取りを有効または無効にするには、次の設定コードを読み取ります。



* 無効にする



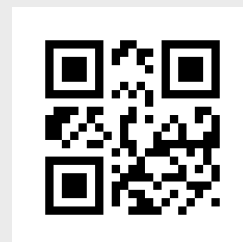
有効にする

MSI Plessey チェックデジット検証

以下の設定コードを読み取って、MSI Plessey チェックデジットを検証するかどうかを設定します。



* MOD10 単一文字チェック



MOD10/MOD10 二重文字チェック



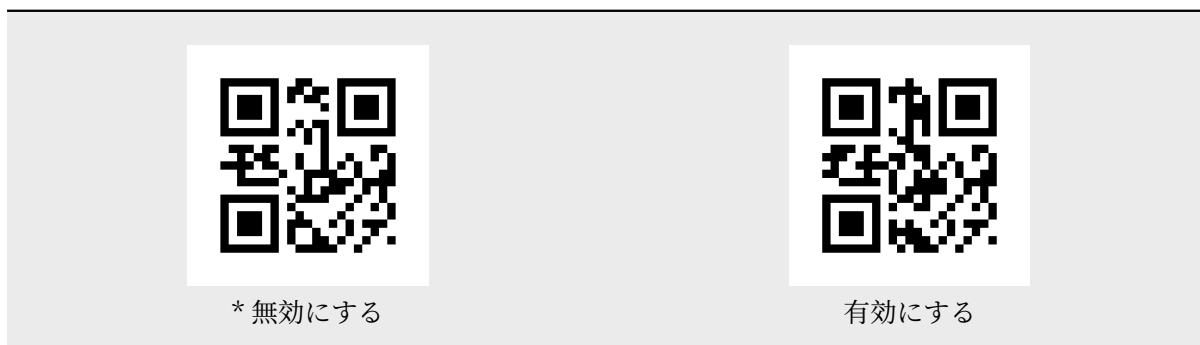
MOD10/MOD11 二重文字チェック

MSI Plessey チェックデジット送信

MSI Plessey チェックデジットを送信するかどうかを設定するには、以下の設定コードを読み取ります。

i 注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。



MSI プレッシーの最小長さ

MSI Plessey の最小長を設定するには 2 つの方法があります。最初の方法では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2 番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

MSI Plessey の最小長設定コードの内容形式: >!000193XX。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ~ 255 です。

例: MSI Plessey の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0001932。

例: MSI Plessey の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!00019312。

方法 2:

「MSI Plessey Minimum Length」セットアップコードをスキャンします。



MSI プレッシーの最小長さ

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

MSI プレッシーの最大長さ

MSI Plessey の最大長を設定するには 2 つの方法があります。最初の方法では、ユーザーが QR コードを生成する必要があります。これは、より多くのユーザーが設定する傾向があり、より柔軟です。2 番目の方法は、手順に従って本書の設定コードをスキャンします。

方法 1:

MSI Plessey の最大長設定コードの内容形式: >!000194XX。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ~ 255 です。

たとえば、MSI Plessey の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001949 になります。

たとえば、MSI Plessey の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00019420 となります。

方法 2:

「MSI Plessey 最大長」セットアップコードをスキャンします。



MSI プレッシーの最大長さ

「デジタルセットアップコード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します



もちろん

8.20 GS1 DataBar/RSS

以下の設定コードを読み取って、GS1 DataBar バーコードの読み取りを有効または無効にします。



* 無効にする



有効にする

8.21 Composite Code

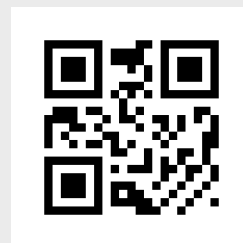
以下の設定コードを読み取って、複合コードバーコードの読み取りを有効/無効にします。

注釈

複合コードを有効にするには、まず別の対応するコードを有効にしてください。



* 無効にする



有効にする

8.22 TELEPEN

TELEPEN バーコード読み取りの有効 / 無効を設定するには、以下の設定コードを読み取ります。



* 無効にする



有効にする

8.23 TRIOPTIC

以下の設定コードを読み取って、TRIOPTIC バーコード読み取りを有効 / 無効にします。



* 無効にする



有効にする

8.24 HONG KONG 2 OF 5/CHINA POST

以下の設定コードを読み取って、HONG KONG 2 of 5 バーコードの読み取りを有効または無効にします。



* 無効にする



有効にする

8.25 韓国郵便/韓国郵便

以下の設定コードを読み取って、KOREA POST/Korea Post バーコードの読み取りを有効/無効にします。バーコードの長さは6バイトである必要があります。



* 無効にする



有効にする

韓国郵便チェックデジット送信

以下の設定コードを読み出して、KOREA POST チェックデジットを送信するかどうかを設定します。



* 無効にする



有効にする

韓国郵便のデータが逆転



* 無効にする



有効にする

8.26 PDF417

PDF417 スイッチ

以下の設定コードを読み取って、PDF417 バーコードの読み取りを有効/無効にします。



無効にする



*有効にする

PDF417 順方向および逆方向の識別

以下の設定コードを読み出して、正逆 PDF417 コードを読み込めるかどうかを設定します。



* ポジティブカラーのみを読み取ります



読み取り専用反転カラー

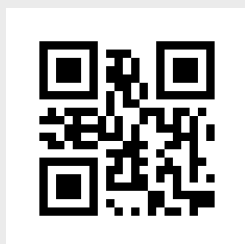


ポジカラーでもネガカラーでも読み取り可能

8.27 QR Code

QR スイッチ

以下の設定コードを読み取って、QR バーコードの読み取りを有効/無効にします。



無効にする



*有効にする

QR Code ポジティブおよびネガティブカラー読み取り

以下の設定コードを読み出して、正色/逆色 QR Code を読み込めるかどうかを設定します。



* ポジティブカラーのみを読み取ります



読み取り専用反転カラー



ポジカラーでもネガカラーでも読み取り可能



通常色（カラーコードを反転）のみ読み取ります。

QR Code ミラー読み取り

次の設定コードを読んで、イメージ QR Code を読み取れるかどうかを設定します。



無効にする



* 有効にする

8.28 Data Matrix (DM)

Data Matrix スイッチ

以下の設定コードを読み取って、Data Matrix バーコードの読み取りを有効/無効にします。



無効にする



* 有効にする

Data Matrix ポジティブおよびネガティブカラー読み取り

以下の設定コードを読み出して、プラス/リバーズカラーの Data Matrix コードを読み取れるかどうかを設定します。



* ポジティブカラーのみを読み取ります



読み取り専用反転カラー



ポジカラーでもネガカラーでも読み取り可能

Data Matrix ミラー読み取り

以下の設定コードを読み込んで画像の Data Matrix コードを読み込めるかどうかを設定します



* 無効にする



有効にする

DM ECI 制御



* 無効にする



有効にする

8.29 Aztec Code

AZTEC CODE バーコードの読み取りを有効/無効にするには、以下の設定コードを読み取ります。



* 無効にする



有効にする

9 付録

9.1 デジタル設定コード

付録には 0 ～ 9 の数字が含まれています。文字 A ～ F。キャンセル; セットアップコードを確認します。



0



1



2



3



4



5



6



7



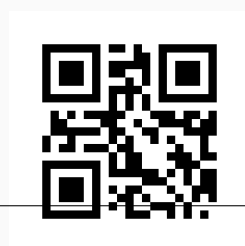
8



9



A



B

9.2 Code ID

コード文字	バーコードの種類
C	Code 128/UCC/EAN-128/GS1-128
F	Code 39/Code 32
J	Code 11
B	Codabar
K	Code 93
E	EAN-13/EAN-8/ISBN/ISSN
U	UPC-A/UPC-E
I	ITF25
D	IND25
S	STD25
M	MATRIX25
N	NEC25/COOP25
P	MSI Plessey
T	TELEPEN
A	Pharmacode One-Track
W	TRIOPTIC
H	HONG KONG 2 of 5/CHINA POST
R	GS1 DataBar/RSS
q	QR Code/Micro QR
p	PDF417/MicroPDF417
d	Data Matrix (DM)
a	Aztec Code
h	Han Xin
m	MaxiCode
t	DotCode
g	GM
o	OCR
k	Codablock A
f	Codablock F
n	郵便番号
V	Korea Post

9.3 AIM ID

バーコードの種類	AIM ID	説明する
Code 128/UCC/EAN-128/GS1-128	]Cm	0,1,2,4
Code 39	] 午前	0,1,3,4,5,7
Code 32	]X0	
Code 11	] うーん	0,1,3
Codabar	]FM	0-1
Code 93	] ぐむ	0-9,A-Z,a-m
EAN-13	]E0	
EAN-8	]E4	

次のページに続く

表 2 - 前のページからの続き

バーコードの種類	AIM ID	説明する
ISSN		
ISBN	]E0	
UPC-A	]E0	
UPC-E	]E0	
UPC-E1	]E1	
ITF25	] 私は	0,1,3
IND25	]S0	
STD25	] うーん	0,1,3
MATRIX25	]X0	
NEC25/COOP25	]X0	
MSI Plessey	] うーん	0,1
TELEPEN	]Bm	
Pharmacode One-Track		
TRIOPTIC		
QR Code	]Qm	0-6
Micro QR	]Qm	
PDF417	] うーん	0-2
MicroPDF417	] うーん	3,4,5
Data Matrix (DM)	]dm	0-6
Aztec Code	] zm	0-9,A-C
Han Xin	]X0	
MaxiCode	] えーっと	0-3
DotCode	]X0	
GM	]X0	
Codablock A	]O6	0,1,4,5,6
Codablock F	] ああ	0,1,4,5,6
GS1 DataBar/RSS	]e0	
Korea Post	]X0	

9.4 ASCII コード比較表

16 進数	キーボードのファンクションキー操作	キーボードの CTRL キーの組み合わせ操作
00h	Null	CTRL 2
01h	Keypad Enter	CTRL A
02h	Caps lock	CTRL B
03h	Right Arrow	CTRL C
04h	Up Arrow	CTRL D
05h	Null	CTRL E
06h	Null	CTRL F
07h	Enter	CTRL G
08h	Left Arrow	CTRL H
09h	Horizontal Tab	CTRL I
0Ah	Down Arrow	CTRL J
0Bh	Vertical Tab	CTRL K
0Ch	Backspace	CTRL L

次のページに続く

表3 - 前のページからの続き

16 進数	キーボードのファンクショ ンキー操作	キーボードの CTRL キーの 組み合わせ操作
0Dh	Enter	CTRL M
0Eh	Insert	CTRL N
0Fh	Esc	CTRL O
10h	F11	CTRL P
11h	Home	CTRL Q
12h	Print Screen	CTRL R
13h	Delete	CTRL S
14h	tab+shift	CTRL T
15h	F12	CTRL U
16h	F1	CTRL V
17h	F2	CTRL W
18h	F3	CTRL X
19h	F4	CTRL Y
1Ah	F5	CTRL Z
1Bh	F6	CTRL [
1Ch	F7	CTRL \
1Dh	F8	CTRL]
1Eh	F9	CTRL 6
1Fh	F10	CTRL -
20h	Space	
21h	!	
22h	"	
23h	#	
24h	\$	
25h	%	
26h	&	
27h	'	
28h	(	
29h	)	
2Ah	*	
2Bh	+	
2Ch	,	
2Dh	-	
2Eh	.	
2Fh	/	
30h	0	
31h	1	
32h	2	
33h	3	
34h	4	
35h	5	
36h	6	
37h	7	
38h	8	
39h	9	
3Ah	:	
3Bh	;	

次のページに続く

表 3 - 前のページからの続き

16 進数	キーボードのファンクショ ンキー操作	キーボードの CTRL キーの 組み合わせ操作
3Ch	<	
3Dh	=	
3Eh	>	
3Fh	?	
40h	@	
41h	A	
42h	B	
43h	C	
44h	D	
45h	E	
46h	F	
47h	G	
48h	H	
49h	I	
4Ah	J	
4Bh	K	
4Ch	L	
4Dh	M	
4Eh	N	
4Fh	O	
50h	P	
51h	Q	
52h	R	
53h	S	
54h	T	
55h	U	
56h	V	
57h	W	
58h	X	
59h	Y	
5Ah	Z	
5Bh	[	
5Ch	\	
5Dh	]	
5Eh	^	
5Fh	_	
60h	`	
61h	a	
62h	b	
63h	c	
64h	d	
65h	e	
66h	f	
67h	g	
68h	h	
69h	i	
6Ah	j	

次のページに続く

表 3 - 前のページからの続き

16 進数	キーボードのファンクショ ンキー操作	キーボードの CTRL キーの 組み合わせ操作
6Bh	k	
6Ch	l	
6Dh	m	
6Eh	n	
6Fh	o	
70h	p	
71h	q	
72h	r	
73h	s	
74h	t	
75h	u	
76h	v	
77h	w	
78h	x	
79h	y	
7Ah	z	
7Bh	{	
7Ch		
7Dh	}	
7Eh	~	
7Fh		

9.5 バーコードの種類

バーコード	16 進数型
Code 128/UCC/EAN-128/GS1-128	01h
Code 39/Code 32	14h
Code 11	17h
Codabar	15h
Code 93	16h
EAN-8	05h
EAN-13/ISBN	06h
ISSN	07h
UPC-E	09h
UPC-A	0Ah
ITF25	0Bh
IND25	12h
STD25	13h
MATRIX25	11h
NEC25/COOP25	10h
MSI Plessey	19h
TELEPEN	1Fh
Pharmacode One-Track	23h
TRIOPTIC	22h
QR Code/Micro QR	3Dh

次のページに続く

表 4 – 前のページからの続き

バーコード	16 進数型
PDF417/MicroPDF417	3Ch
Data Matrix (DM)	3Fh
Aztec Code	3Eh
Han Xin	43h
MaxiCode	40h
DotCode	45h
GM	44h
Codablock A	26h
Codablock F	24h
GS1 DataBar/RSS	1Ah
郵便番号	25h
OCR	46h
HONG KONG 2 of 5/CHINA POST	20h
すべてのコード	FFh